

# 日本人の

れ

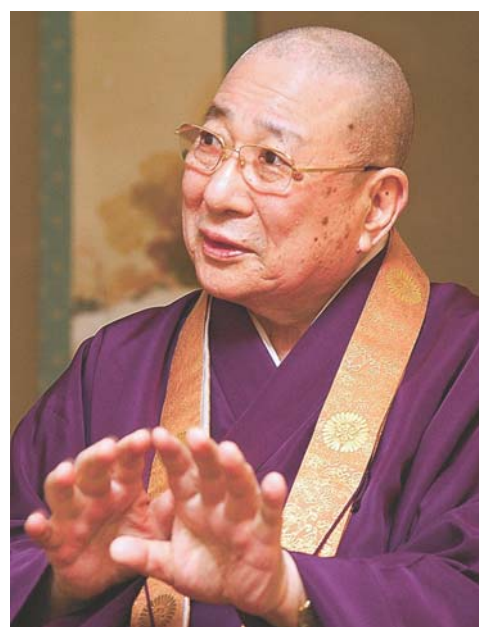
vol.29



京都、こころここに

## 森を守る

妙法院門跡門主 菅原 信海さん



すがわら・しんかい 1925年、栃木県日光市生まれ。早大第一文学部卒。早大名誉教授(日本宗教思想史)、文学博士。京都古文化保存協会理事長。天台宗大僧正。著書に「神仏習合思想の研究」など多数。

### 日本の暦

#### 旧正月

旧正月は、旧暦の1月1日(こしは1月23日に当たる)、またはそこから始まる数日間のこと。1960年ごろまでは、まだ多くの地方で旧正月を祝っていました。中国や台湾では春節、ベトナムではテトと呼び、今も新暦の正月以上に派手にお祝いします。モンゴルやシンガポールなどでも、旧正月は国民の祝日になっています。

日本では、奄美大島など一部地域を除き、旧正月行事はほとんど見られなくなりました。七五三(7日、小正月(女正月。15日)、嘗正月(20日))といった旧暦時代から続く習俗も、だんだん忘れ去られているのは時代のすすむ勢でしょうか。

### リレーメッセージ



アイト プロデューサー 武智 美保さん

■青い鳥は足元に 京都に生まれ育った私にとり、京都は何ともめんどくさくて、居心地が悪い町でした。 ローマでアートプロデューサーとして活動を始め、「ミホプロジェクト」を設立しました。祖父の翻訳では「興行師」「アーティスト・イベント・デザインなど、ヒト・モノのプロデュースをしています。

起業した頃、イタリヤは「奇跡のルネサンス」といわれた時期、伝統の中に新しいアートやデザインなど、革新が素敵に共存して、刺激的な所でした。日本はパブルの真ただ中、日本とイタリアの文化の橋渡しも面白く、何をしてもうまくいきました。 そんな時、師から「あなたの仕事は地球人としての仕事、環境や人の心をつぶしてはいけない」と言われましたが、その言葉はとても重く、本当に悩みました。私が私らしく感じられる所を求めて出かけたのですが、年を重ねて、その場所が変化している事に気がきました。 伝統と革新が共存している町に憧れ続けた、その町が自分の生まれた所だったと気付くのに少し時間がかかりました。青い鳥を探しにヨーロッパへ出かけましたが、その鳥は私の足元にいた様です。(次回1月29日のリレーメッセージは、歌手の平山みきさんです)

(日本人の忘れものは、京都新聞ホームページ <http://kyonon.jp/kp/kyo-on/page/nwc/>で読めます)

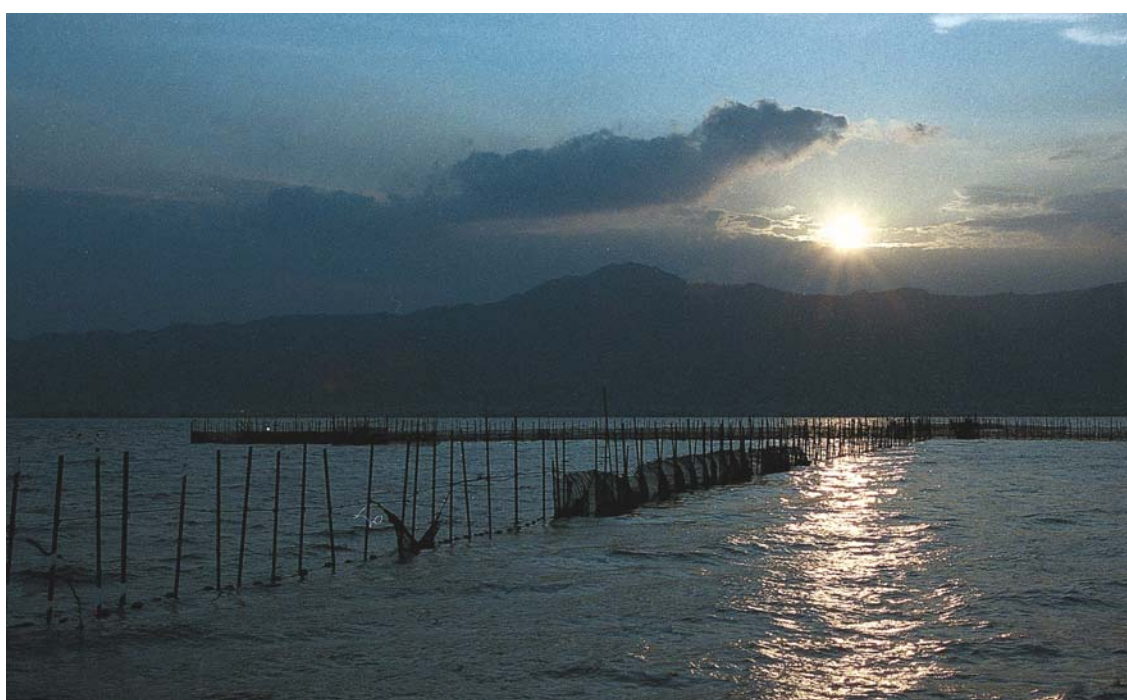
今は冬枯れするとき、落葉樹の木々は、すべて葉を落としていく。なんの装いもなく山々が、あるのみ。しかし、この山々も夏には、緑濃き装いだっただけ。

ナラ枯れで茶色に  
山容が一変  
自然の仕返しでは

この毎年変わらぬ山の姿が、去年の秋口には一変していた。山肌半分は茶褐色に変わっていた。仕事柄、よく湖西道路を通る機会がある。道路から見る周辺の山々は、ナラ枯れで茶色になった木々



が目立つようになった。茶色になった山容の異変に驚かされる。 自然を大切にしている日本人にとって、心痛む情景である。かつて、枯れで日本の山々が茶褐色に変色したことがあったが、今度はナラ枯れとは、害虫による被害ばかりとはいえない。



自然を敬う日本人は、古くから山を守り樹木を大切に育ててきた。その伝統をおろそかにすると、自然から仕返しを受けることにもなる(琵琶湖越しに望んだ比叡山)

山を美しくしようとすると管理が疎かになったからでもある。森林の管理とは、そこに植わっている樹木を、いかに環境よく理想的に撫育す



発想であるが、日本人はこのように、地球上に存在するすべてのものに、仏になる素質、つまり仏性があると考える。だから樹木を大切に育て、自然の岩石をも粗末にしない。

# 「自然に仏性あり」と見る心： 崇拜し感謝し共に生きてきた

日本人は自然と付き合う心の作法を心得ている。自然の豊かさに、寛容の心が養われてきた。自然の豊かな風土に生まれたわれわれは、自然と共にあり、自然の豊かさを共有してきた。その中に育まれたわれわれは自然に対する感謝の念が、自ずと醸成されてきたのである。

己を忘れ  
他を利するは、  
慈悲の極みなり

日本人は自然と付き合う心の作法を心得ている。自然の豊かさに、寛容の心が養われてきた。自然の豊かな風土に生まれたわれわれは、自然と共にあり、自然の豊かさを共有してきた。その中に育まれたわれわれは自然に対する感謝の念が、自ずと醸成されてきたのである。

「この心が「利他の心」を育成することになり、伝教大師がいう「己を忘れ他を利するは、慈悲の極みなり」の名言を生んでいるのである。 日本天台では、「草木国土、悉皆成仏」という考えがある。草や木、そして国土に至るまで、心をもたないものまで、人間など心をもったものと同じように仏性があるという考えが成仏している。

自然との一体感をもつ日本人ならではの山を美しくしようとすると管理が疎かになったからでもある。森林の管理とは、そこに植わっている樹木を、いかに環境よく理想的に撫育す

日本人は自然をこのように神聖なものと考えている。それは日本の神祇信仰においても、同じようなことがいえるのであつて、日本の神は自然のもの、つまり岩や石に天下とされ、そこに神を招いて祭をしており、その岩や石を「磐座」「磐境」と称している。その場所は聖域とされ、岩石自体が神聖な石として崇拜の対象となり祭るようになる。 崇拜の対象となる自然のものとしては、山であったり、木であったりする。山が神体山として崇拜の対象となり、いわゆる山岳信仰を生んでいる。また特定の本を神宿る木、神木として尊崇の対象とする事例も枚挙に遑がない。日本人はこのように自然を大切に、自然を崇拜の対象としていることは、自然に対する日本人の「心の作法」であつて、あくまでも自然と共にある、という美しい心の現れであると思われる。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

人と人との永遠の別れを哀しむ心は今も同じ。生きて残った人の哀しみに寄り添って、故人を悼み慰める尊さを公益社は伝え続けてまいります。

公益社 北ブライツホール(堀川崇明)  
京都市北区紫野宮西町34  
TEL:075-414-0420

公益社 中央ブライツホール(五条大和路)  
京都市東山区五条橋東三丁目390  
TEL:075-551-5555

公益社 南ブライツホール(堀川八条)  
京都市南区西九条池ノ内町60  
TEL:075-662-0042

公益社 西ブライツホール(五条西大路)  
京都市右京区西院西溝崎町14  
TEL:075-322-0042

公益社 烏丸ブライツホール(因幡薬師)  
京都市下京区烏丸通松原上ル因幡堂町728  
TEL:075-351-7724

公益社 宇治ブライツホール(宇治植島)  
宇治市植島町本屋敷102-1(京都文教大学前)  
TEL:0774-20-0042

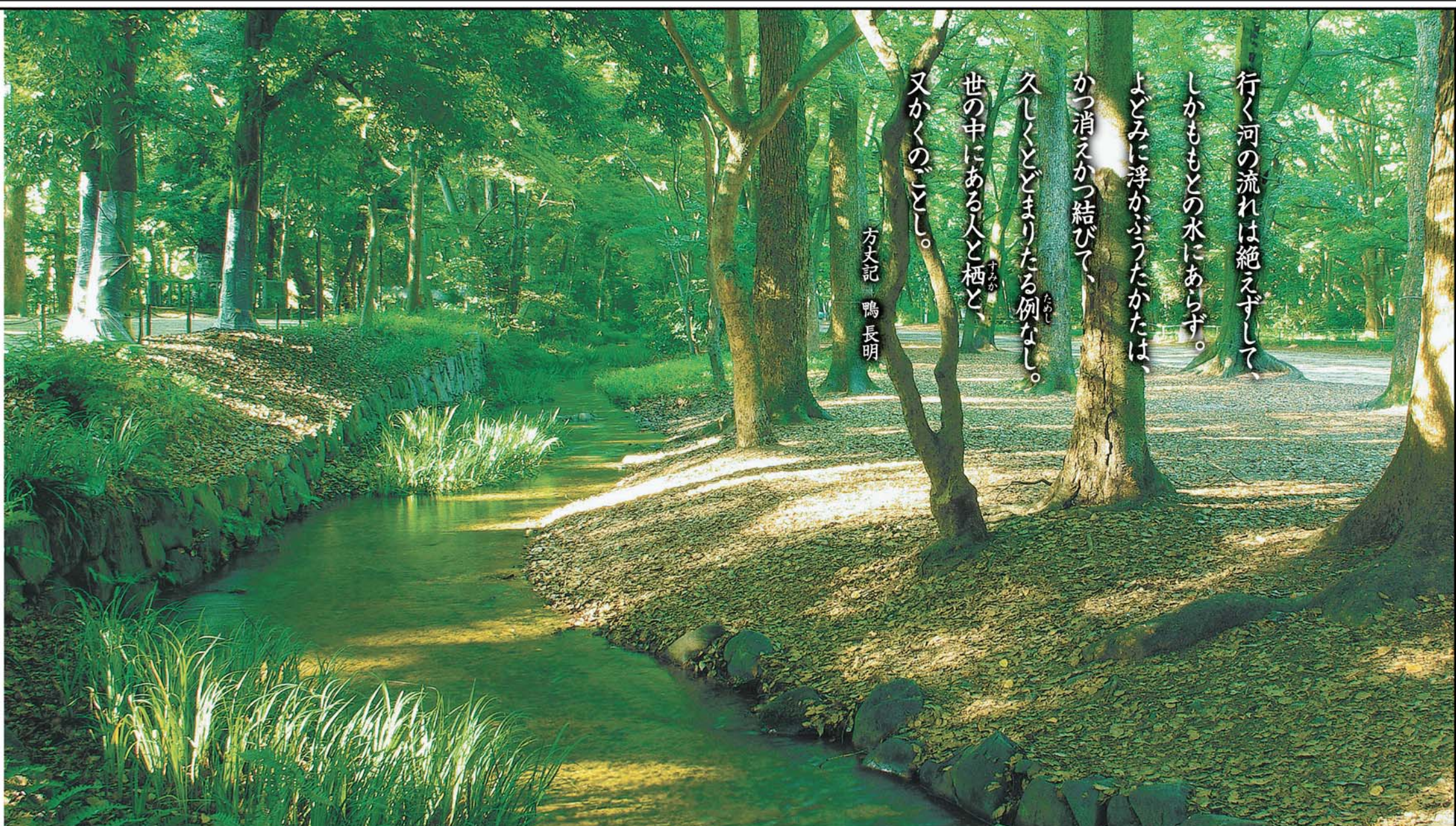
公益社 滋賀ブライツホール(天津)  
大津市朝日が丘1丁目125  
TEL:077-523-0094

永年の信用・まごころのご奉仕

葬祭センター

# 公益社

本社/京都市中京区烏丸通三条下ル TEL:075-221-4000  
フリーダイヤル0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>



行く河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖ど、又かくのごとし。

方丈記 鴨長明